

寒氣零度
に達す

韓祖廟に
行人福を
祈る

とせしに、頗る好結果を得たり。惟ふに抹香の如きは、支那各地何處に於ても其の品に乏しからざれば、強ち携帶不便の懷爐灰を用意せずとも、此の便利なる抹香を應用する亦妙ならずや。記して冬期旅行者の參考に供す。

二十三日寒氣遂に零度を示せり。深溝、寬溝、曹家鋪、火石溝、石灰溝、鎮羗驛を經、金羗河を渡りて、鎮羗營に到る。一兵營あり、長官は遊擊にして部下歩兵九十餘名を率ゆ。是より烏沙嶺ウサリン（海拔約七千三百尺）に上り、其の頂に達するに、一廟宇名けて韓祖廟ツミヤオと稱するもの有り、蓋し韓退之を祀れるか。建碑の文を按ずるに曰く、『郷人奉昌黎從孫湘子、以時致祭、不知始於何時』云々と。旅客の此處を過ぐる者多く叩頭三拜して前路の福を祈ると云ふ。斯て下向安定アシゲンを過ぐ。安定一名安陽子アシヤンツと云ひ一兵營あり兵卒二十餘人を屯す。此より沙溝に出で、行程我約六里餘龍溝鋪に車泊す。

地形は谷口、鎮羗驛間は、北に烏沙嶺脈、南に雪山脈相並びて西北東南に走り、金羗河其の中間を流る。雪山は崑崙山脈クンレンの一支にして、其の名の如く四時雪を戴き、山麓稍々大なる臺地を成形す。萬里の長城は、金羗河の左岸に沿ふて山麓又は中腹